

平成28年度 第1回鳥取市景観形成審議会 議事録

1 日 時 平成28年10月31日(月) 13:30～15:30

2 場 所 鳥取市役所本庁舎4階 第2会議室

3 出席者

(1) 委員

芦澤喜武委員(会長)、中橋文夫委員(副会長)、西村強委員、来田裕子委員、池本義隆委員、山本美穂委員、成清仁士委員、田中雅勝委員

(2) 事務局

鳥取市都市整備部 綱田正部長、谷口浩章次長兼都市環境課長

都市環境課 森田誠一課長補佐兼管理係長、田中和人景観緑化係長、廣谷一茂技師、浅井崇典主事

都市企画課 山川泰成課長補佐、岡田久司主幹

庁舎整備局 尾坂和昭局長補佐

(3) 設計業者

(株)久米設計 小牧実豊氏

4 議事

(1) 鳥取市気高道の駅(仮称)整備事業の基本設計(案)について

5 報告事項

(1) 鳥取市新本庁舎建設基本設計の完了について

6 議事概要

(1) 議事(1) 鳥取市気高道の駅(仮称)整備事業の基本設計(案)について

〈事務局〉

※資料1を用いて説明

以上で説明を終わります。

(芦澤会長)

はい、どうもありがとうございました。

5ページのイメージ図案は、どちらから見たものですか？

〈事務局〉

左上が西道路になります。

(芦澤会長)

3ページの図面と大型車両の停まる所が反対ではないですか？

〈事務局〉

基本構想時は、南側に大型車両の駐車スペースやガソリンスタンドを配置する構図でしたが、基本設計を進めていく中で、地元から大型車両の駐車場は住宅地から遠い、北側の方が良いというご意見をいただいたため、北側に配置した3ページのレイアウト図に変えています。

(芦澤会長)

はい、わかりました。道の駅というものは、私も全国いろんな所に行ってみまし

たが、全国で1,100近くあるそうです。そして、整備され始めた頃は、旅の通過点という認識が多かったのですが、近年は旅の目的になっており、そこに行くために旅をするという方向に進みつつあると言われてしています。それはどういう事かと言いますと、まず、道の駅では地域や農村地帯の特産品をたくさん販売しており、特産品を使ったご当地グルメの開発などもしています。また、道の駅からの景観や景色を求めて行く…こういう二つの面で、道の駅は旅の目的地になりつつあると言われてしています。

ちなみに去年か一昨年に京都で行われた全国のご当地グルメのコンテストで、栃木のゆず塩ラーメンというのが非常に評判が良くてトップになり、全国で5倍も10倍も売り上げが伸びました。また、ラーメンばかりでなく、その道の駅の売り上げが非常に伸びたという話も聞いた事があります。そして、鳥取の河原の道の駅は関西では非常に人気の高い道の駅になっているようです。

皆さんにも意見を伺いたいと思いますが、どうですか？この基本設計を見られまして、どう感じられますか？

(成清委員)

景観形成審議会という事で、この会での議論のポイントとして、景観に関する事に絞ってお聞きするという事でよいですか？

(芦澤会長)

できる限り景観に絞っていただきたいのですが、景観というのは、実際にそこに住んでいる、あるいはそれを利用したりして形成されていくものであり、いろいろな事が関与してくるため、景観だけを区切って論ずるのは非常に難しい。思った事を、いろいろな事を総合的におっしゃっていただいたら結構だと思います。

(成清委員)

はい。では質問ですが、ここの境界は非常に田園風景が美しく、横を自転車でサイクリング、あるいはバスで通った時に、「となりのトトロ」のような雰囲気があると私は感じているのですが、高速道路が通る事で少なからず景観に悪い影響を与えていると思います。あるいは風を遮るとか、水の流れも変わるかもしれません。そういった問題点に対して、この計画がどういう風に対処しているとか、計画案のコンセプト、特に今日の会議としては、景観の部分については、こういった趣旨で、例えば周辺の田園風景をどういう風に読み取って計画に反映しているのかといったようなコンセプトの部分を少し詳しく教えていただきたいと思います。

(芦澤会長)

はい。担当者はどうですか？

〈事務局〉

委員がおっしゃる通りであり、田園風景の広がる、風光明媚な森林地に突如として高速道路が現れるというような立地になるわけですが、道の駅の整備につきましても、周辺の田園風景を、ある程度大事にしないといけないと考え、5ページに基本構想案のイメージ図をお示ししております。周辺の植栽として、高木や低木等を植えたり、駅舎は木造のものを考えておりますし、環境負荷の少ない木

質バイオマス等も導入をしながら環境と調和した道の駅になるよう、基本設計を検討している所でございます。自動車の利便性のある程度確保するため、駐車場はアスファルト舗装になってしまいますが、駅舎全体のイメージとしては、周辺の景観とあうような色味を使うとか、そういった事を実施設計の段階で考慮しようと考えています。

(成清委員)

植栽は並木にしたり、駅舎に木材を使ったりすると言う事ですが、その前提になるような分析整理が大事だと思います。周辺の景観に馴染むというのも、まず周辺の景観を分析しないといけないと思うのですが、それはこれからという事ですか？

〈事務局〉

周辺の景観分析について、どういった所まで分析するのかまだ整理できていませんが、今は周辺住民の方々に、この土地に対する思い等をワーキンググループ等の場を通して、いろいろお聞きしている所です。そういった地元の方々のこの土地についての思いも、分析の中に盛り込んでいこうと考えています。

(芦沢会長)

今田園風景があるから、そこを高速道路が通ったら壊すとか、そういう概念もありますが、景観というのは、人間の活動生活の中で形成されていくものであり、美しいという事を意識してつくっていかばいい。そうした付加価値を付ける事で魅力ある景観を新たに形成していくわけです。ここの田園景観というのは、鳥取側（東側）はトンネルで、米子側（西側）は山を切り開きますが、米子の方から来ると、山の裾に岡木という集落が見えます。そして、鳥取の方から見ると岡木の集落が（よく見えて）非常に良い景観です。このあたりの家の建ち方を見ると、蔵を建てたり、いわゆる農の営みを通じて守られてきた農村の風景になっています。また、あそこからは鷲峰山が正面に見られます。だから、鷲峰山と農村の景観を楽しめるような、そういう道の駅を建ててほしいと思いますが、全体の風景の中で道の駅がどこから見えるかと言えば、今度は逆になります。鹿野の方から海の方を見ると道の駅が見えるのですが、（建設中の高速）道路が高いため、海側は何も見えず、何の景観もありません。だから全体の景観を考えると、（高速）道路から（見える景観）ばかりとなり、農の営み、田園風景を壊すというのではなく、新たにその中で仕掛けをつくる事も考えてもいい、この建物が建つときにそういうものが観賞できるような場所をつくったりして、（特に今おっしゃったように）中に近代的なものを建てるのではなく、周辺の集落に馴染むような木造で建てるとか、そういうものも検討していただきたい。現場に行ってみたら、そういう風を感じました。

(中橋副会長)

私も道の駅を設計したり、道路造園というのを長らく設計してきました。その経験から言いますと、景観設計とは、いま会長がおっしゃったように、空間だけではなく、時間と人間をトータル的に考えて、その場所は時間とともに変わってくるという事。そういった事をまず考えながら計画します。その時に大切な事は、ネクスコ、昔の道路公団の道路設計仕様がありますが、高速道路が通っていると、必ずサ

ービスエリアやパーキングエリアからインターチェンジをつくり、その時に地域を破壊しているのです。そして、ネクスコの昔のランドスケープの総帥は、大地にメスを入れたものは元に戻せという哲学を持っていました。だから、こういう事をおつくりになって、これはこれで地域発展としてはいいかもしれませんが、今、会長が言われた事は、景観デザインの中でも、外景観と内景観という定義があるという事です。それで、外側からどのように見えますか、中側からどのように見えますか、景観を破壊するのであったら、景観を再生する。例えば自然環境調和植栽、景観保全植栽、そういう植栽技術がございます。また、そこの道の駅のランドスケープのシンボリックにするのであれば、そういう植栽もございます。また、今ね、鳥取県が一所懸命取り組んでおられる緑陰設計という設計もございます。この計画は道路とかこうした道の駅の設計の手法を、あまりご存じない方が設計したのではないかと私は思います。ちょっとお粗末ですね。そして、レポートの切り出しに「鳥取・因幡らしさが息づく」とありますが、私らよそ者が思うのは、これは一体なんだという事です。ちょっと説明していただけませんか？…おしゃれですが、こういう設計するのであれば、地域の風土論を説明して、そしてこれが鳥取・因幡らしさであるというのがロジックにあって、そして、こういう絵を描いてます、という三段論法の説明が要るのですが、いま聞いていたら、主観でレポートを読んでいるみたいでした。そのような説明をしていただきたい。

〈事務局〉

ご意見ありがとうございます。1ページ目のコンセプトは一番最初、一昨年、この道の駅の整備にあたって基本的な構想といたしますか、考え方を考える時に設けたものでございます。この道の駅の目玉、コンセプト、キャッチフレーズといたしますか、そういったものをこれから詰めていこうと思っています。

（中橋副会長）

本当ですね？

〈事務局〉

本当です。先生がおっしゃるように、いろんな植栽の技術があるとお聞きしていますし、機会があれば設計に反映したいと思いますので、また、お知恵をお借りできればと思います。よろしくお願いします。

（芦澤会長）

これからまたいろいろ検討していくわけですから、こうして出た意見を聞いて判断していただき、出来る範囲で反映していただければと思います。

（中橋副会長）

緑陰駐車場については、鳥大の学生が研究しており、良い資料があります。鳥取方式の芝と鳥大を売りこむチャンスであり、どこかに取り入れていただきたい。

（芦澤会長）

まあ先生、それは一つの考え方であって、それ以外にもたくさん考え方があります。鳥取芝方式も決して100%良いわけではなく、まだまだ他の方法もあつたり、欠点もたくさんあります。緑陰駐車場も、昔からドイツの方では整備されていたけ

ど、問題点もたくさんあります。一つの意見、一つの考え方として、参考にさせていただき、出来るのであれば、やってみていただいたら結構な話だと思います。景観や緑化というのは非常に複雑であり、いろいろな要素が絡んでいるため、絶対というものはありません。よりベターなものを求めて、考え、採用していただけたら結構かと思います。

その他、何かありますか？

(池本委員)

道の駅単独で景観を考えている傾向があります。5 ページ目のイメージ図を見ると、道路から道の駅までの間の空地、法面について、最近、国土交通省は景観に対する、特に植栽への配慮がどんどんなくなっており、単に草抑えのシートをしたりだとか、そういう情景がすごく見られます。鷲峰側（南側）の景観は素晴らしいものがありますが、海の方側（北側）は土手の部分で完全に遮られますので、この道の駅から見ると、相当大きなキャンパスみたいなものが出来ると思います。このあたりを景観に配慮してほしいと国交省の方に強く言っていただけたらと思います。

(中橋副会長)

今国交省がグリーンインフラストラクションという概念をつくってるでしょ？グリーンインフラストラクチャー。要するに、こうした空間全てに緑がある事が当たり前だという社会資本整備の概念です。だから、県も国もグリーンインフラストラクチャーの考え方をだいぶ落とし込んでるはずですよ。この整備の財源はどう計画していますか？

(事務局)

道路管理者と我々事業主体のセットで整備するものであり、駐車場は前面道路の交通量に見合った駐車台数とし、トイレとか、道路情報を提供するような施設は道路管理者が行います。今回の場合だと県が行う予定です。

(中橋副会長)

建物は国の補助が出ますか？

(事務局)

その他の地域振興施設の建物とかは我々（市）が整備しますが、国の交付金等はいりません。

(来田委員)

配置の事について、高速道路をメインに考えるのであれば、道の駅の正面は高速道路の方に向いてる方がお客さんが入りやすいと思うのですが、これ見ると県道の方に正面が向いています。何か議論があって後ろ向きになっているのか、そのあたりを教えていただけないでしょうか？

(事務局)

道の駅の利用者として、ほとんどは高速道路の利用者を想定していますが、トンネルを抜けてから、次の山に向かうまでの区間はとても短くて、一瞬で通過してしまうようなエリアです。本来は高速道路から道の駅が見えるのが一番良いのですが、今の配置で整備すると、高速道路上からは、道の駅の南側の一部しか見えませ

ん。この予定地は農地転用とかいろいろな制限がある中で高速道路沿いに整備する事となり、現在の計画になっています。また、高速道路利用者だけではなく、地元の気高、鹿野、青谷の皆さまにも使っていただく道の駅にしたいという事もあり、生活道路の一部となる県道側に正面玄関を設けて整備する計画としています。

(来田委員)

コの字型にしたらどちらからでも見えるような気もするので、高速道路から入りたいと思わせるように、高速道路からも見える施設にさせていただくのが良いと思います。

(芦澤会長)

景観にはあまり影響がないかもしれませんが、入口の関係で私が感じたのは、高速道路を走ってきた車が道の駅に立ち寄らず、通り過ぎてしまう可能性が十分にあるという事です。資料1ページに描かれているように、高速道路を走っていく途中に白兔海岸や鳥取砂丘、河原の道の駅があります。この気高の道の駅から9号線に抜ける道の整備、そして9号線を通して白兔や砂丘を見て、今度は53号線を通り河原の道の駅に行き、帰ってくるルート。この整備をして誘導する事が必要ではないかと思います。

(田中委員)

今の話に関連しまして、資料1ページに描かれているように、3つの道の駅が連携して、あるいは特色を出してとか書いてありますが、今の流れを見ると、やっぱり点になっており、観光面でも何でも面的な繋がりがありません。私は末恒地区の白兔に住んでいますが、地区要望として何十年も、今言った西道路に抜ける御熊白兔線という狭い県道を何とか観光バスが通れるようにしてほしいという要望をしています。しかし、途中でJRの線路があって、その下をくぐるには、下に川があるため困難であると、また、上を通れるようにするには莫大な費用がかかるという事で中座しています。そこらも含めて、道が一本できると、会長がおっしゃったようにルートが確立でき、9号線から砂丘にもつながります。今はそのルートがなく、高速道路を走った車はそのまま米子や松江に行ってしまう、白兔や砂丘が置き去りにされてしまう恐れがあるので、そういった事を将来的にも含めて考えていただきたいと思います。また、3つの道の駅で連携をとってとありますが、例えば河原と白兔は恋人の聖地や八上姫等の関連で、コンセプトが似た所がありますが、気高の道の駅との繋がりがどうなるのか、そのへんをよく考えていただいて、地域の活性化に繋がるように、トイレ休憩で降りる道の駅ではなく、観光の目的地となるように、いろいろな仕掛けを検討していただきたいと思います。

(芦澤会長)

この道の駅は鳥取市の西の玄関の一つになります。だから、高速道路をずっと走って通り抜けるのではなく、途中で9号線に抜け、白兔も見ていただけるよう誘導しないとイケません。そのためには、誘導地点にたくさん緑を植えて、これから鳥取市内に入ります、ここからが玄関です、といった感じで、きれいで吸い込まれて自然に行きたくなるような道をつくる事。そこに木を植えたりして、きれいな庭

をつくって、誘導させるという事も考えないと、みんな通り過ぎてしまいます。

(中橋副会長)

今の会長と田中委員のご指摘は、まさに地域計画の施設です。そして、こうした道の駅の計画は点ではなくて、地域全体で考える必要があります。その時に道路と道の駅の関係、高速道路のインターチェンジは地域の玄関になります。だからそれぞれランプの工夫したり、植栽系だったり、石を使ったり、デザインしてます。ではここでも、そういうのを考えると、一つ植栽機能として視線誘導植栽というものがございます。これは道路設計のマニュアルに書いてあります。それとランドマーク植栽ですね。あの大木を抜けたらあそこに近づくといったような考え方がドライバーにあります。今の計画では、道路に何もお化粧をしてません。だからせめて道の駅の近辺に関する植栽デザイン、いわゆる視線誘導植栽とランドマーク植栽を地域の風土に根付く植物で行ってはどうでしょう。多分、樹種の話はまだ次の話だとおっしゃるでしょうが、この時点で樹種もある程度絞り込む。このためには、この地域の潜在自然植栽は何か、また、その二次的な地域植生は何かという話もあります。そういった事を考えていけば、気高の気候に合った植栽設計をしているという事になるんです。そういう検討をコンサルの方にさせていただいて、誰もが理解できる計画をつくっていただければよいかと思えます。これが私の言う風土論です。

(成清委員)

設計趣旨がわかるような資料で、今この場で共有できるようなものはないでしょうか？当初の考え方や検討の経過がわかる資料がないと、なかなか議論しづらいと思います。まだ会議の時間も少しあるので、もしあれば出していただきたいと思いました。どうでしょうか？

〈事務局〉

簡潔にまとめたものはないので、あらためてまとめさせていただきます。

(芦澤会長)

この基本設計はどこかに委託しているのですか？

〈事務局〉

基本設計はコンサルに委託し、一緒に計画しています。

(中橋副会長)

今話しているのは基本設計ではないんですよ。基本構想、基本計画でその辺を整理するのが普通なので、それを整理したものはありませんか？

〈事務局〉

基本構想、基本計画の案をまとめており、その成果品は今でもお出しできますが、かなり分厚いものでございます。また、その後に地元の方々といろいろな協議をする中で、計画を組み直していき、現状の計画になっているというのが今までの経過です。

(芦澤会長)

まだまだ景観や緑化に対する意識が皆さんに行き渡ってない、知れ渡ってないというか、まだ幼稚なんです。そして、社会が成熟してくるとだんだん目が向いてく

るのですが、今の日本ではそこまでいいません。だから道路をつくろうが、建物を建てようが、景観に配慮する事という程度で整備してしまっています。景観というものを基本設計の段階から論じるという事が出来ていない。これは鳥取ばかりでなく、全国的にそうなんです。国だってそうなんです。だから追い追いそういう事をしていかないと駄目だと思います。今の発注の方法から見ても、例えば、こういうものを発注して、コンサルが受注すると、そのコンサルの考え方で全部つくっていくわけです。今日皆さんから出た意見を参考にして、また考えていただいたら結構だと思います。出来ない事は出来ないで結構です。

〈事務局〉

ありがとうございます。先ほどからの議論を聞いておまして、一点だけ。西道路、高速道路の関係でございます。ここの谷の幅がだいたい600mか800mぐらいだろうかと思えます。そしてこの高速道路は時速70km、そういった規制の道路になるかと思えます。単純に計算すると、例えば600mですと、だいたい20秒ぐらいで通過する事になります。そのため、トンネルなり法面の所から実際にこの谷を視認するのは、おそらくあつという間に通り過ぎてしまうという印象であり、我々としては、高速道路上に案内標識とかを設置していただけるよう道路管理者である国土交通省と今後検討していく予定にしています。

それと、田中委員さんより高速道路から白兎道の駅へのルートというお話がございました。鹿野のインターチェンジから北側に抜ける県道について、資料2ページに図がありますが、もともとクランクみたいな形状だった道路を改良して通りやすくし、このインターを降りた車がすぐ9号線に向かえるような取り組みを県がしています。白兎の関係につきましても、国交省の方で重点道の駅という指定をいただきまして、内容について、これからソフト面も含めて取り組んでいくという事がございます。県道の御熊白兎線についても鳥取県が、このJRの線路をどのように越していくかという検討の基本構想というか、そういったものにすでに着手しており、実際事業化にはいろいろな手続きが出てこようかと思いますが、そういう動きも実際に起きているという事だけ報告させていただきます。

（芦澤会長）

高速道路上から見る景観というのは、今おっしゃったようにわずかな瞬間だから、道の駅に降りて、そこから周辺の景観を楽しめる、この辺りの農業が続いていくかどうかはわかりませんが、農村景観と鷲峰山。この景観だけは何とか守っていき、それをグレードアップできるような仕掛けをつくっていくという事も考えられます。いわゆるトワイライトタイムなり夕方、そういう時の鷲峰山の色というのは素晴らしい色になる時期があると思えます。それから初冠雪の時とか、そういう時は非常に農村景観とマッチした、いい景観になる可能性があると思えますが、そういう所を撮影スポットにすると、それだけで人が訪れます。米子から境港に行くベタ踏み坂には、交通がマヒするくらい人が訪れます。ただ漠然とつくるだけでなく、何か特色をつくらないといけません。

（中橋副会長）

会長、一言だけお願いがあります。皆さんからいろんな意見が出てますが、これは無理だから出来ないとか、そういう風な形で意見に対するQ&Aが欲しいです。次の会で完成したレポートを見せられても、我々の意見が反映されているのかどうか、わからない場合があります。平井さんが小さくても勝てるという本を書かれましたが、あの本には良い事が書かれています。公務員は自分の知っている範囲しか仕事をしない。そこから一步踏み出して、一番合理的な方法を探せという事が書かれています。そういう風な事を確実に反映してほしいです。それだけの一つよろしくお願いします。

〈事務局〉

中橋先生のおっしゃる通りでございます。今日の議事録をまとめて、市の考え方を回答させていただきますし、あわせて成清委員からもありましたように、基本構想、基本計画をつくった時のデータや考え方をまとめたものも、次回の審議で使っていただきたいと思います。

(芦澤会長)

先ほど申しましたように、景観というものは、これが絶対だ、こうでない間違だという事はなく、いろんな考え方があるわけですから、そういうものを議論しながら、このようにまとめましたという事で結構でございます。出来ないものは出来ないで結構でございますので、一つよろしくお願いします。

それでは次に移らしていただいてよろしいでしょうか？

それでは報告事項になりますが、鳥取市の新本庁舎建設の基本設計についての報告をしていただきたいのですが、これは前回の会でも説明がありまして、私や中橋副会長さん、委員の方も2、3方、意見をおっしゃっておりますので、その内容も含めて報告していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

(2) 報告事項(1) 鳥取市新本庁舎建設基本設計の完了について

〈事務局〉

失礼します。庁舎整備局の尾坂といいます。今日は基本設計がまとまりましたので、久米設計の小牧さんと一緒に説明させていただきます。よろしく申し上げます。まず最初に会長さんがおっしゃられましたように、意見をいただいておりますので、それについて、私の方が説明をさせていただきます。その次にホームページでも公開しております、庁舎のイメージ動画がありますので、それを上映させていただきます、その後久米設計から基本設計の内容について、説明させていただくという順番で進めさせていただきます。

前回いただいた意見について、「市民の声を聞いて取り入れてほしい」という意見についてですが、平成28年3月26日から5月14日にかけて、市民30人と、アドバイザーとして鳥取環境大学の遠藤先生にご協力をいただきまして、計3回の基本設計の市民ワークショップを開催しました。メンバーは「窓口サービス」、「市民交流サービス」、「4つのにわ」をテーマにA～Fの6つのグループに分かれ、新庁舎に必要な機能、デザインについて意見を出していただきました。A、Bグループは窓口サービスについて、Aグループは「市民が安心して相談でき、くつろいで利

用できる、きなんせ窓口」というテーマで、Bグループは「やさしさとあたたかさあふれる新庁舎」というテーマで、C、Dグループは「市民交流スペースについて」、Cグループは「鳥取から鳥取 color を目指して!」というテーマで、Dグループは「ちょっとひといき/そうだ、市庁舎へ行こう!」、E、Fグループは「4つのにわ」について、Eグループは「わたしのにわ」、Fグループは「ついでに新庁舎」をサブテーマとして提案をいただいております。いただいた内容としては、「親子連れの利用が多い待合ロビー付近に子どもが安全に遊べるキッズスペースを配置する。」「高齢者がくつろげるハートフルコーナーを配置する。」「トオりにわに面した待合ロビーが緑の見える明るい空間とする。」「利用者目線で使いやすい駐車場を検討する。」「安心して子どもを連れてこられる窓口とする。」「誰にでもわかる総合窓口、鳥取らしさを感じる情報発信スペースを設置する。」「市民、県外者、皆が自由に交流できる庁舎とする。」「鳥取らしい運営・施設にする。」「常に市民のための展示ができるスペースがある。」「喫茶・飲食をギャラリーのように活用する。」「喫茶・食堂は駐車場に近くする。」「緑豊かな安らぎの庁舎として屋上緑化、緑豊かなトオりにわとする。」「鳥取の特色のらしさ、風格のある鳥取らしいデザインの市庁舎とする。」「みんなが集まる場所づくり」「誰もが気軽に立ち寄れる庁舎とする。」「災害時にも活用できる庁舎とする。」「駐車場は立体駐車場が良い。」「賑わいのにわとしてイベントを行う。」「オクのにわは、皆が利用できるにわにする。」「緑が多く、市民が集え、遊べるにわとする。」「緑のある駐車場とする。」「駐車台数を確保する。」「鳥取の気候に合った駐車場にする。」等といった意見が出されました。

また、7月11日から8月7日まで、この基本設計についての市民政策コメントを実施しております。21人から37件の意見をいただきました。内容につきましては、結構多岐に渡っております。「基本設計のコンセプトについて」、「配置計画について」、「環境計画について」、「省エネ機器について」、「計画概要について」、その他として「広報・情報発信について」、「工事管理について」、「庁舎外観について」、というようなご意見をいただき、可能な限り基本設計に反映させていただくとともに、引き続き実施設計について検討していくというように、今進めております。

次に、デザインについて、ご意見をいただいております。立面計画の考え方として、4点考えております。一番目として、鳥取らしい新たな景観を創出し、鳥取しゃんしゃん祭りなど、晴れの舞台としても栄える表情とします。二番目として、鳥取の自然や文化、歴史などの特色を表す庁舎として、シンプルで機能的なデザインとします。三番目として、質素な中でも風格、魅力、先進性を備えたものとし、鳥取の気候・風土と共生するエコスマートな庁舎とします。四番目として、街なみと調和し、周辺に圧迫感を与えないような形態や色彩等にも配慮した計画として、幸町棒鼻公園を含めた4つのにわと一体に緑豊かな景観を創出していきます。以上の4点をテーマに立面を計画しています。引き続き、実施設計では、さらに検討していく事にしています。

次に「緑陰駐車場をつくってほしい」という意見がありました。緑陰駐車場は市民ワークショップの中でも提案されておりましたが、「庁舎の駐車場は広い駐車場にして」という提案もあり、災害時の防災車両の駐車やヘリコプターの発着の機能を優先しつつ、利便性を考慮し、最大限確保したいという計画にしております。ですので、緑化としては、周辺部に中高木により計画をする事になります。

次に、「最上階を市民の飲食スペースや展望ロビーにして、自由に上がって鳥取の街なみを眺望できるスペースとしてほしい」というような意見がありました。7階建ての庁舎として、行政運営の必要なギリギリの面積まで削減して計画しております。最上階の7階にある議場前のロビーは展望ロビーと兼用しております。飲食スペースはどなたでも利用できるように、低層の市民交流棟に喫茶・食堂・売店を計画しています。

次に、「観光客目線の何かを取り入れてはどうか」という意見がありました。庁舎棟の一階玄関近くに鳥取市の魅力情報発信スペースを配置します。また、市民交流棟には、市民や市民団体の情報スペース、西の玄関横には総合情報スペースを設置します。意見として、以上、まとめさせていただきました。

続きまして、基本設計のイメージ動画を画面の方で見ていただきたいと思います。

※イメージ動画の上映

続きまして、基本設計の説明をしていきます。

〔設計業者〕

※資料2を用いて説明

簡単ではございましたけど、基本設計の説明とさせていただきます。

（芦澤会長）

はい、どうもありがとうございました。今こうして基本設計の説明をしていただきました。報告事項で報告していただいたのですが、何か聞きたい事等がありましたら、どうぞ。…これから実施設計に入るのでしょうかから、基本設計といたらこんなもんだらうと思いますが、非常に美辞麗句が並んでおり、かつこいい言葉がいっぱい並んでいるのですが、これを具体的に、実施設計にもってきたら、大変な事だらうと思いますが、どうですか皆さん、どのように感じますか？

あまりないようでしたら、私の方から一つだけお願いしたい事がございます。電柱の地中化…無電柱化。今ね、電柱の地中化というのは電線の共同溝方式でやっているわけですが、これは非常に費用がかかります。普通（架空配線の場合）の10倍、20倍も、費用がかかってしまい、先般の鳥取城跡の計画でも数億円かかるという事で、非常に難しかったのですが、どんどん技術開発が進み、国土交通省もいろんな事を研究して、直接埋設方式や管路埋設方式という方式を出しています。今までの共同溝方式というのはオーバースペックであり、歩道の幅が2m50cmないといけない等、いろいろな規制があったのですが、そういうものがなくなると、2m50cmなくても良くなりましたし、今まで80cm～1m20cm地下に埋めていたのが、今度は歩道であれば15cm、車道でも35cmで良くなる等、そういう風が変わってき

ています。それから日本にはまだないのですが、一日に1kmぐらい敷設していくようなトラクターを開発したり、そういう事によって非常にコストも削減されてきています。また、財政支援も大きく変わってきています。特に駅前周辺の道路や防災に寄与する道路、路線などは、地元の負担がたった22%ぐらいで済むように進んできておりまして、すでに一部国土交通省から市に通達が来ていると思います。従って、(新市庁舎)周辺の電柱・電線の地中化を進めてほしいのです。庁舎整備の予算だけでは足りないのであれば、別予算を活用して、庁舎を含めた周辺の無電柱化を検討してほしいです。これは景観と、それから防災を目的とした、一つの大事な要素であるとは思っています。将来の建物ですから、そういう事も考えてほしいと思って、一つだけお願いしたいと思っています。

(中橋副会長)

二つ目、よろしいですか？

(芦澤会長)

はい。

(中橋副会長)

私は造園家であり、コンサルであるという立場から意見を言わせていただきます。

まず、1ページに、良いスケッチ、パースが描かれています。真ん中にある「ナカのにわ」でイベントをしています。これはどのくらいの頻度でやられるのか…これが本当に、常にイベントをして、こういう風に使うのであったら、こういうパースにしますが、年に数回程度であれば、こういうスケッチを描くのはあまり良くないです。ここは普段、駐車場でしょ？

〔設計業者〕

はい。

(中橋副会長)

であれば、そういう風な絵にした方が私は良いと思っています。年に何回くらいイベントをするのですか？

〔設計業者〕

まだ決まっていません。今後の検討事項です。

(中橋副会長)

次にいきます。2ページの平面プランね、建物の周りは細かくていろいろな空間を考えており、良いと思います。ただ、こういう建築物と周辺のランドスケープを考える場合、この空間の正面性はどこにあるのか。説明を聞いていたら、JRの駅から来るような所が正面に見えますが、ほとんどの人は車に来て、真ん中の駐車場に置いて行くので、真ん中の所に正面性があると思います。その点についてはどう考えますか？

〔設計業者〕

そういったお話しを市民の方からもいただいており、東側から30%、西側から70%であると想定しています。ですので、東側も西側も正面として考えてほしいと

思います。

(中橋副会長)

その場合、この案では離合集散のスペースがありません。ここを広場というのであれば、もう少し広い空間をつくらないといけないと思います。そして、西口から駐車場を見ると、アースカラーの舗装が広がっていますが、これは熱いんです。ここに緑陰駐車場を入れるよう、前回、私は強く言いました。さきほどの尾坂さんの答弁で出来る範囲という事をお聞きして、少しは検討していただけたら鳥大の先生も喜ばれますし、検討してほしいと思います。そして、この奥に公園がありますが、これは街区公園ですか？近隣公園ですか？

〔設計業者〕

現状は街区公園です。

(中橋副会長)

この空間を「オクのにわ」と言うのはいいのですが、庁舎から80mくらい離れているため、誰も使いません。夏は暑くて仕方がない。ここを市民のために使うのであれば、そういう工夫のデザインをしないとけないという事です。その事はどう考えていますか？

〔設計業者〕

私達はいろんな提案をさせていただいている中で、近隣の方々と打ち合わせをさせていただいている所であり、今は中間報告というか、途中経過がこういう状態という事です。今後変わっていくかもしれません。

(芦澤会長)

現在もうすでに公園があるわけですね。

〔設計業者〕

あります。

(中橋副会長)

80m歩くのはしんどいので、はっきり言って誰も行けません。だから行かす工夫を実施設計で考えてください。

次にいきます。私は建築の事はわからないので、あまり言いません。ただ砂場のアースカラーでデザインの色を工夫しているのはわからない事もないですが、JRの駅前に風紋広場があり、ホテルニューオータニも茶色ですが、もう砂丘を卒業したらどうでしょうか？今、鳥取はジオパークや千代川の流域等、新しい視点ができています。そういう空間の風土性からデザインを考えるというのはどうですか？

次にいきます。16ページ17ページについて、この中で…私は阪神淡路大震災で大変な目にあっているのですが、一番はやはりトイレです。神戸の街の街区公園はトイレで大変な目にあっています。便槽をピット構造で計画していますが、これが建築だけで設計する話と街区空間で、こういう形のピットでどれだけの大きさをとるのか、それ（を計画する事）が一番の喫緊の課題です。そういう事をこの（計画の）中に加えたらどうですか？

そして、多分、人が逃げてきたら、テントを張ったりするので、そういう設営空

間とか、広域避難所の街区空間のあり方等、これは都市緑化技術開発機構がつくっている防災ハンドブックを参考に、この計画に落とし込まないといけません。

次に18ページについて、これもよくやっておられますが、総合案内とか音声案内とか、造園の分野では、五感に通じるユニバーサルデザインというのを考えます。五感に関して、どうも聴覚等が総合案内等にはないのではないかと思っているのですが、それはどの程度考えていますか？

〔設計業者〕

聴覚もあります。

(中橋副会長)

外国人対応とかもちゃんとやってくれるのですか？

〔設計業者〕

それももちろんやります。

(中橋副会長)

はい、よろしいです。そして19ページはさきほど言ったように、建物の正面性の事で疑問があります。あと21ページ、ここから、原風景、街道、地形というのがありますが、ここで抜けているのは、やっぱりジオパークを入れる事。そして、このインターロッキング舗装は、スプライト描画でデザインしたのですが、これはどこでもする方法です。もう少し色と舗装のデザインを変えないといけません。

インターロッキングは20年前のベースです。だから副素材に鳥取の地場の素材で、佐治石やいろいろな石があるので、例えばそういう石を一部入れるとか、久松山の石垣等、何かそういうデザインがあれば取り入れるとか、この空間はそういうデザインでいいんです。私達は緑化フェアの時も、ポール・スミザーという植栽屋さん呼んで、いろいろなナチュラルガーデンをやりました。その時にポールが目をつけたのは久松山のお城の石積みです。それと鳥取の山野を歩き回り鳥取の植栽を調べ、そのような種を落とし込んでいけば、鳥取の気候風土に合った植栽計画が行えます。その事がここにあまり反映されていないというのが、私の印象です。そしていろいろ配慮して植栽を計画しているようですが、植栽の樹形景観をどのように考えていますか？

〔設計業者〕

敷地全体で見るわけですから、低草が足元を取り巻いて、高草が立っているといった形で、あらゆる角度から見た時に、北側と南側に高草、高い樹木、きれいな樹木を配置する事で、街として、建物と一体に緑が見えるよう気配りするような庁舎にしたいと考えています。

(中橋副会長)

それがハイノキのアイデアですか？

〔設計業者〕

ハイノキも書いてます。

(中橋副会長)

それが紅葉するから、舗装の色と、砂丘の色と一緒にであるというロジックを組んでますよね？こんな事は書かない方がいい。もっと、こういう中高層の建築には、円錐形の樹形が合うという事がわかっています。ケヤキとかメタセコイヤとか、そういう樹形のピタッとくるやつが合います。ボワツとした木は合いません。そういう風な植栽景観のデザイン論を述べて、樹種を変えていけば、このロジックが通りますが、そういうのがありません。そうした事を実施設計できちんとしたらいいと思います。それと、カバープランツの使い方が具合悪い。足元があまりにも寂しすぎます。そういう時は、市や県がしているナチュラルガーデンをどこか入れてはどうでしょうか？そういう事が、全然見えません。鳥取県がキリンソウを一所懸命栽培しています。もう少し鳥取の造園やランドスケープを勉強していただいて、やっていただければと思います。

〔設計業者〕

はい、ありがとうございます。

(芦澤会長)

中橋先生の方からいろいろご意見をいただきましたが、この資料の中に、樹種の選定等は実施設計で行うと書いてありますので、出来る範囲内で、採用できるものは採用していただくよう考えていただきたいと思います。

(中橋副会長)

会長さん、一つお願いがあります。私の発言について、Q&Aの資料をつくっていただきたい。こういう理由でバツとか…これはさきほど道の駅の議論で言ったのと一緒です。我々が一所懸命出した意見について、どれだけ反映していただけるか、それが楽しみで委員をさせていただいているので、無視はしないようにしてください。

(芦澤会長)

出来る事と出来ない事があります。先生のご意見でもっともな面もありますし、いろいろ議論をしないといけない面もあり、全て（の意見）をそのまま反映しないといけないわけではないですから、実施設計の中で検討していただきたい。

これから申し上げることは、要望ではないので、私の個人的な意見として聞いていただければいいですが、はっきり言って、この計画全体が根本的に幼稚だと私は思っています。なんとかのにわ、なんとかのにわって書いてありますが、実際は、申し訳程度に緑を植えましたという感じがします。本来は林があつて、自然の林をつくって、その中に建物を建てていくというのが、ほんとに豊かな、基本的な考え方であり、街区の公園も全部含めて考えないといけない。極端に言えば、ど真ん中に庁舎を建て、その周り全部に高木を植えて林の中を歩いていくとか、例えば熊本県庁は、玄関に行くまで林の中を歩いて行くような感じです。だから基本的な考え方が私はちょっと…、でもまあこれは仕方のない事、公共の建物というのは、そういう風になってしまっているから。そしてもともとの考え方の部分が違うので、そういうレベルしかないと思って諦めているのですが、皆さんの意見を聴取して、計画に反映して、大変な作業になるだろうが、そのように進めていけばいいと思

ます。

ただ、先生が言われていた駐車場の緑陰。これはイベントに使うといっても、イベントで車に乗ってきた人はどこに車を停めるかと言ったら、その中かその周辺に停めないといけないわけです。だから、ヘリコプターの降りる所とか、そこだけは確保して、周辺にいくらか高木を植え、そういう緑陰をつくるっていう事で、非常に緑豊かに感じる駐車場になります。あまりにも駐車場のスペースが大きすぎるからね。そして、こっちの公園の方はあまり利用がないと思います。ただ公園というのは利用するばかりでなく、そういう空間を確保するという事が大事であって、公園に何しに行くかといえば、目的はなく、何となくというのが一番多いのです。それが公園のスペースなのです。だからテーマパークの公園であれば目的がきちんとあるのですが、それ以外の公園、街区公園等は、何となく行って自然に楽しむ、触れるために出かけるというのが一番多いです。別にしてくれと言っているのではありませんが、そういう空間を確保するという事に意義があるので、そのような考え方を構築していかないといけないと私は思っています。ただ、私が一番気に入らないのは、オモテのにわ、なんとかのにわ、なんとかのにわと書いてありますが…

「にわ」という概念と「公園」という概念と、それから「緑地」、いわゆる木を植える…これらは全く違います。簡単ににわ、にわ、にわ、おっしゃいますが、厳密に言えば、「にわ」という概念と違ってきます。

(中橋副会長)

おっしゃる通りです。

(芦澤会長)

だけど、そういう事を言っても始まらないから、私は黙っておきますが…、本来プロであれば、そういう事を考えていかないとはいけません。ただ、そういう段階にないんです。日本全体のレベルから言えば、まだまだようしません。やはり社会がヨーロッパみたいに成熟していかないとね。私は諦めています、本当は諦めたらいけないのですが…というような事を感じております。これは蛇足だと思って聞いてください。

(中橋副会長)

いや、正論ですよ。会長さんの意見は正論です。

(芦澤会長)

だから、それはそれで仕方がないですから、そういうレベルでも整備して、緑地等は変えようと思えば変えられるから…まだまだ鳥取は、市民がそんなレベルにないんです。落ち葉が落ちればゴミになる、だから木を植えるなど言う。だから何のために鳥取で緑化フェアをしたのか、意義が全くない。だから私は非常にけしからんと思っているのです。テーマが悪かったのかもしれませんが、そういう意味で全体から考えてくると、まだまだ幼稚なレベルです。だけど仕方がない、今まで景観審議会でいろんな所をやって、つくづくそれを感じました。私は県の景観アドバイザーもしていたのですが、マンションを建てる計画で大阪の設計事務所がきちんと緑地をつくった所、鳥取の住民は木を植えてくれるな、ゴミが落ちて汚いのでいら

ないと言うので、大阪のコンサルはびっくりしていました。まだそういうレベルであって、追い追いかけていかないと仕方がないです。だから皆さんから意見を聴取しながら、出来るだけ努力して、つくっていただけたらいいと思います。先生のおっしゃった所も一理あるし、いろんな意見があります。今から実施設計の中に取り込んでいけるものは取り込んでほしいし、出来ないものは出来ないという理由をおっしゃっていただいたら、それで結構だと思います。

(成清委員)

すみません、3つお願いしていいでしょうか？

景観やバリアフリーの事というのは、周辺と協調してこそそのものだと思うので、特に周辺の商業施設、特に大きなものと言えばイオンやシャミネがありますし、公共交通で言えばJRとかバスセンター、そのあたりと協議を重ねていただきたいと思います。駅から歩いていく人達がかなりいると思うのですが、特に車に乗れない方とかもいると思うので、そういった方の歩いてくる中で景観やバリアフリーが一体的に良くなるように協議の場をもっていただくようお願いします。

2点目に、真ん中にある「ナカのにわ」については、使われる機会が多くないように思います。なので、具体的にどういった時に使われるのかを掘り下げていただきたいと思います。一つはしゃんしゃん祭りですとか、あるいは年末年始のイベントですとか、検討の余地があると思うのですが、あまり機会がないような気がするので、いくらかは具体的に想定をして、関係者と協議の上で検討していただきたいと思います。

あともう一つ、「オクのにわ」については、街区公園という事で、この図を見る限りでは、地元の人がグラウンドゴルフに利用されてるという事ですが、それ以上の使い方があまり想像出来ません。公園というのは予期せぬ使い方をされるという事ももちろんありますが、そのあたりは「ナカのにわ」の使い方と連動する部分もあるかと思うのですが、より具体的にどういう方がどういった使われ方をされるか想定した上で、関係者と協議をしながら進めていただきたいと思いました。よろしくお願いします。

(芦澤会長)

一つの意見として聞いてください。私の考え方はパブリックのあり方、公園とか広い空間というのは、そういう空間を担保して確保するのが一番大事な事であって、それをどう使うか想定して整備するのではなく、規制をかけずに空間のまま放っておき、皆がどう使うかをまず見る。そして、その使い方によって整備をした方が良ければ、どう整備をするのか、そういうものを徐々に考えていく。だから、大きな広い空間を一気に整備しない事が一つのやり方だと思っています。最初何もせず、とにかく草木だけを植えて、広っぱのまま放っておき、その代わり車で入ろうが、火を使用しようが、何しようが市民の自由にさせて、こういう風に使われた、ならこういう風に整備したらいいなあというものが出てくる。そういうやり方もあります。

(中橋副会長)

今公園の話が出ましたが、もう国は公園の整備をストップしています。というのは、国民一人当たりの公園面積が10㎡を超えましたね。公園整備というのは、昭和46年から、第一次から第七次の都市公園緊急整備措置法という法律に基づいて整備されてきて、今日本で12万haも公園があります。そうした所、今の公園を、空間をどうやって使うかというストックマネジメントが必要です。この棒鼻公園は都市公園法では街区公園です。街区公園というのは、近隣街区の人が、憩いや遊び、安らぎに利用する空間です。そこに今、防災の機能が入ってきています。しかし、それだけでは公園は生きていきません。今は使われない公園は廃止してしまえという事で、ユニクロを置けとか、そういう時代です。ここはイオンの隣で人が集まるから、公園の利用価値を上げないと将来なくなる恐れがあります。鳥取市の公園面積は一人当たり10㎡を超えており、使われない公園は用途転換するという考え方は、いずれ出てくる考え方です。そういう風にならないよう、パークマネジメントをちゃんとしてください。

(芦澤会長)

そもそも公園というのは基本的には地域住民が運営・管理するものであり、本来は火を使うな等の規則をつくって、行政が管理するものではありません。公園、パブリックスペースというのは、ヨーロッパの一つの概念であって、ヨーロッパの、いわゆるアングロ・サクソンの生活というのは自然と対峙した文化だから、これが人間の建物だと言って中に閉じこもり、息苦しいので窓を付けて風通しをよくして、今度は建物ばかりで息苦しくなったため、ちょっと自然の空間をつくろうという事をつくったのが、このパブリック、いわゆる公園、そういう概念が公園にはあります。日本の場合も自然と対峙した都市から公園論が始まってきたわけです。自然と共生している、田舎の方では、このような公園という概念はもともとありません。どのようなものがあつたかと言えば、自分の家の前の庭、鎮守の森等で、生活と一体感のある空間なんです。それがだんだん発展してきたという、まあそういう一つの考え方であり、これは私の考え方です。いろんな考え方があります。

(成清委員)

「ナカのにわ」の利用の事なのですが、イオンさんとうまく連携ができれば、利用頻度をもっともつと上がるはずなので、ぜひお願いします。そうすれば、しゃんしゃん祭りとか年末年始だけでなく、何かのマーケットを誘致してくるとか、その時はイオンさんの駐車場を利用させていただくとか、という話になってくると思うので、うまく連携をしていただければと思います。よろしくお願いします。

(芦澤会長)

はい、何かありますか？

(来田委員)

たわいない一言として聞いていただければいいのですが、車を使う者として、駐車場には、ほとんどの方が右折で入られると思います。鳥取は狭い所を平気で行き来したり、事故とかでイライラする事が非常に多いので、ここの道路はちょっと狭いですし、ショッピングセンターに行く方もいらっしやると思います。53号線沿い

に路駐して、ちょっと走って庁舎に行ってくるとかっていう、とんでもない人もいらっしゃると思います。あと救急車をどこに駐車させるのかちょっと心配にもなるので、車の動きにちょっと配慮していただけたらと思います。

(中橋副会長)

今のご指摘は私も前に少し言いました。そして、この駐車場は、市役所に行くけどイオンに置いて行こうとか、イオンに来た方等が、両方とも利用してお使いになると思います。だから、今ご指摘の事を、イオンの土地だから、他人の土地では出来ませんというのではなくて、何か提案出来ませんか？例えばイオンさんも緑陰駐車場にしたらどうですかとか…。イオンは、イオンの森づくり事業という、横浜国大の先生にお願いして、森づくりをやっています。市役所がこうするからイオンさん、真っ黒の舗装を何とかありませんか？とか…。もう少し景観補修をやって、今、来田委員がご指摘されたような事も対応して、安全、安心で快適な、イオンと市役所の駐車空間を一体的にとらえるマネージメントを考えるべきです。提案して駄目だったらすみませんで終わりですが、そういう事を考えないといけません。

(芦澤会長)

今日は大変いろいろな貴重な意見が出ましたので、参考としていただいて、良い実施設計が出来ますように、よろしくお願いします。

その他何かありますか？

〈事務局〉

事務局はないです。

(芦澤会長)

はい。では、これで会を閉じます。どうもご苦労さまでした。

(一同)

ありがとうございました。